

新規就農者と地域農業者

それぞれの思い

新規就農者

佐藤 英貴さん

宮城県石巻市から平成26年3月に家族で豊浦町に移住。その後6カ月間、役場で農地の調査員として働き、平成28年から佐藤義一さんのもとで研修開始。平成30年から独立して就農。

地域農業者

佐藤 義一さん

大岸地区でいちごやあさつきを栽培。豊浦町農業委員や苺耕作組合副組合長、新規就農者親方ネットワークの会長を務める。

キーワード

地域とのつながり



▶英貴さん

豊浦町の農家さん1軒1軒全部回ったので、そこで農家さんの話を一人一人聞いたというのが、1番大きかったかもしれないですね。それで、調査員の仕事が終わるときに、自分も農業をしたいということ伝えて研修に入りました。



▶義一さん

5年先にはもう豊浦町の農家の平均年齢が65歳を過ぎてこのままいくと、いちごの生産が衰退してしまうということから、なんとかしなければならぬということがありまして、2年間、研修生を受け入れることとなりました。

当初は、不安がありました。どういう形で受け入れをしながら育てていけばいいのかなど。難しいですけども、半年が経過して、彼の場合は、うちに来た当初から全部言ったことをメモ書きしていました。朝・昼・晩、びっしりメモをして。それを家

に帰って復習しながらやっていたので、この人は大丈夫かなと思いました(笑)



▶英貴さん

日々の仕事の中でいろいろ見せてもらったり、その都度質問したなかで、答えてもらっていたのが、今に生きています。

義一さんもそうですが、地域や役場の方とか、たくさんの人にお世話になって、実際こうやって今年、就農できて、農業でもしっかり食べれるんだよということを示していきたいなど。それがこうやって、みんなにお世話になった恩返しになるのかなと思って



▶義一さん

やっぱりこの地でやっていくには、地域との関わり方が1番大事になってくる。そういう地域との関わりを多く持てば持つほど、何かあったときに、やっぱり助け合いがすごく重要になる。だから、その辺をよろしくお願いします。

今は、さみしい気持ちはない。ああやって、いちご栽培を自分でしているのを見ていると逆に嬉しい。そして、何事もすごく真剣に取り組んでいるので。だから、これからも英貴さんのような人が、どんどん入って来てくれればいいと思っています。

